

グリーンワークかがわ公開セミナー

【2011年度】

第5回 2012年1月22日

テーマ：絵本を通して喪失を考える

講師：曾利真弓 グリーンワークかがわ理事

『だいじょうぶだよゾウさん』という絵本を通して公開セミナー参加者と一緒に死別について考えた。『だいじょうぶだよゾウさん』は年老いたゾウさんと若いネズミの絵本。死を迎えるゾウさんとネズミの関係性を読み解いた。読み解く際にフィンクの危機理論を主に用いた。

まず、絵本を朗読し、参加者に1グループ4名～5名に別れてもらい感想を話してもらった。その後、絵本の感想を聞き、その後絵本の解釈を行った。フィンクの危機理論はターミナルケアにおける看護の分野で有名である。フィンクの危機理論は（1）衝撃の段階：最初の心理的ショックの時期（2）防御的退行の段階：危機の意味するものに対して自らを守る時期（3）承認の段階：危機の現実と直面する時期（4）適応の段階：現実を建設的に受け入れていく時期であり、危機の望ましい成果、の4つの段階に分けられている。

また、喪失を経験し悲嘆にくれる人の状態を内的エネルギーと外的エネルギーという概念で説明。それにより周囲にいる人のサポートの大切さを説明。そして死別で悲嘆にくれている人の話をサポートする側の人の姿勢として、「死別（死が近くなった）した人にできたこと（＝生前に出来たことや喜んでくれたことに気付いてもらったり、認めることが大切）」を認めることを述べた。

最後に今回の公開セミナーで最も強調したいこととして「絶対性」ということを述べた。絶対性とは死にゆく（死別した）人と残される（た）人が歩んだ関係であり、他の人の経験と比較しても意味がない（相対的ではない）ということ。他の誰とも共有できないオリジナルな関係。サポートする側は理論だけでなく、悲嘆にくれる人が経験した唯一の経験を尊重しなければならない。ここにグリーンワークをサポートすることの難しさがある。悲しみにくれる人の援助をする際には、これを知っておかなければならないことを述べた。

そして今回紹介できなかった『おじいちゃんがおばけになったわけ』を朗読して終了した。

セミナー終了後に、参加者から絵本を用いて喪失を考えることを肯定する意見や良かったという感想を頂いた。